

高原町立高原小学校の学力向上への取組

1 平成 17 年度の本校の学力調査結果及び意識調査から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

本校では平成 15 年度から 3 年間、授業におけるきめ細かな指導の在り方を究明しながら研究・実践を行い、基礎・基本を定着させ、学力向上をめざしてきた。表 1 を見てみると学力テストの偏差値が徐々に伸びてきていることがわかる。

【表 1：学力テストの年度別偏差値の推移】

	国語	算数
H16 年度	48. 4	50. 2
H17 年度	51. 1	52. 4

しかし、学年または個人による基礎・基本の定着の差が見られた。各教科の基本的な学習指導過程を、共通理解し、全職員で実践していくとともに、個に応じた指導の工夫が必要である。

(2) 意識調査結果からの課題

与えられた課題に対して、ねばり強く取り組むことや意欲的に学習することを苦手とする児童がいる。そのため、学習を自分のものとしてとらえ、主体的に学習する手立てを講ずる必要がある。

特に、国語科については、他教科に比べて苦手意識があり、指導に重点を置く必要がある。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

本校では、学力向上に向け、以下のような経営方針で学習指導に当たっている。

- 各教科、総合的な学習の時間を中心に、体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図り、自ら課題を見付け、意欲的によりよく問題を解決する力を育成する。
- きめ細かな指導や個性を生かす教育、到達目標達成の取組を推進し、基礎・基本の確実な定着を図る。

(2) 教育課程内の取組

○ 問題解決的な学習の充実

児童一人一人に基礎・基本を定着させるためには、児童自らが課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断し、よりよく問題を解決する力を身に付けさせることが大切である。そこで、本校では各教科の基本的な学習指導過程を「つかむ」「予想する」「見通す」「調べる」「まとめる」の 5 段階とし、授業を進めている。

○ きめ細かな指導の展開

本校では、評価をもとに児童の実態を把握し、個に応じた指導・支援を行い、確実に基礎・基本が定着するような学習を展開することで、評価と指導・支援の一体化を図っている。個に応じた指導・支援とは、意識調査やレディネステスト、前時までの児童の学習状況に対する教師の評価から児童の実態を把握し、「A：目標に十分達成している」「B：おおむね目標に達成している」「C：努力を要する」の実態に応じた手立てを講じていくことである。特に、本校では学習指導過程の「調べる」段階に重点を置き、基礎・基本を確実に定着することができるようにしている。

【表 2：きめ細かな指導・支援の例】

段階	児童の実態	きめ細かな指導・支援例
A	目標に十分達成している	・発展問題、リトルティーチャー、問題作成等
B	おおむね目標に達成している	・類似問題、辞書の活用、小グループでの話し合い、ペア学習等
C	努力を要する	・個別指導、ヒントカード、具体物・半具体物、補充問題等

○ 自己評価・相互評価

「まとめる」段階に自己評価・相互評価を取り入れ、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにするとともに、基礎・基本が確実に定着できるようにした。自己評価・相互評価の観点は「情意面に関すること」「学習内容に関すること」とした。さらに、累積的な自己評価・相互評価も取り入れ、児童自身が自己の変容を知ることができるようにした。

○ 少人数指導の工夫

本校では 2 名の少人数指導教員が配置されている。平成 17 年度は、算数科において全学年で少人数指導を実施した。平成 18 年度は、児童の実態から国語科と算数科において、少人数指導

を実施している。児童が学習に主体的に取り組み、基礎・基本を定着させるために、少人数指導における学習形態の工夫や、きめ細かな指導を行うための手立てを工夫している。

【表3：少人数指導における指導形態】

指導形態	学習内容
習熟度別グループ編成	○ 知識・理解などの習得に個人差が著しく見られる学習 ○ 作業や嗜好の速さに個人差が著しく見られる学習
等質グループ編成	○ 児童同士の教え合いが期待できる場合 ○ 習熟の差があまり見られない場合 ○ コース決定や課題選択が難しい低学年
課題別グループ	○ 導入時に課題を複数提示し、児童が内容



また、少人数指導教員が学級担任と協力して宿題や家庭学習にも積極的に関わるようにし、学習内容の確実な定着を図っている。

○ ぶんぶんタイム（1単位時間）

平成18年度は、児童の実態から1単位時間の「ぶんぶんタイム」を年間5時間（国語科）設定し、読み取る能力の取り立て指導を行っている。その際、クラスに2名以上の教師が入り、指導を行い、児童の実態に応じたよりきめ細かな指導を行っている。

(3) 教育課程外の取組

○ 計算タイム

2校時終了後の業間の時間（10：25～10：35）を「計算タイム」と称し、全学年で毎日計算練習に取り組んでいる。児童が意欲的に取り組むことができるように、時間や点数を記録したりして、意欲的に実施できるようにしている。これまで継続して取り組んできたことで、確実に計算力が付いてきている。

○ ぶんぶんタイム

月曜日の朝の時間（8：15～8：25）を「ぶんぶんタイム」と称し、以下のような内容で指導を行い、「書く力」「読む力」「漢字力」の定着を図った。

【表4：ぶんぶんタイムの各学年部ごとの内容】

週	内容	低学年	中学年	高学年
1週	言葉	伸ばす音、撥音、拗音等	指示語、接続語等	送りがな、仮名使い等
2週	作文	「～は～です。」の練習	段落に分けて書く。	書き出しを工夫して書く。
3週	漢字	平仮名、片仮名、漢字	漢字、学習した漢字を使って文を書く。	熟語の構成から言葉の意味を考える。
4週	読み取り	文章題を中心に問題を解く。		

○ 読み聞かせ

毎週金曜日の朝自習の時間に保護者やボランティアの方々が、各クラスごとに読み聞かせを行っている。児童も楽しみにしており、読書への意欲付けになっている。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

○ 家庭学習の手引き

本校では、児童の家庭学習の充実を目指して、「家庭学習の手引き」を作成し、全家庭に配付している。家庭学習の進め方や家庭学習の内容、目標時間などを記載している。児童へ指導するとともに学級懇談や個人面談の際、家庭学習の定着や内容の充実についての啓発を行っている。

3 成果と課題（○成果、●課題）

○ 問題解決的な学習を取り入れ、個に応じたきめ細かな指導を展開してきたことで、基礎・基本が定着してきた。平成18年度の学力テストの結果（国語52.7、算数54.0）にも成果が現れている。

○ 自己評価・相互評価を取り入れたことで、児童が自分を振り返る習慣が身に付き、学習意欲が高まり、主体的に学習に取り組むようになってきた。

● 今後も評価と指導の一体化を図り、個に応じたきめ細かな指導・支援を充実していく必要がある。